

2010 **LOTE: Japanese First Language GA 3: Examination**

Written component

GENERAL INFORMATION

Most students sitting the Japanese First Language examination showed a strong need for further development of reading and writing skills, including basic grammar, paragraphing, structuring and punctuation.

It is important that students are aware that the VCE Japanese First Language study is taught differently to how Japanese is taught in Japan. The aim of the VCE study is clearly described in the outcomes of the study design. Teachers are urged to go over it carefully. They should also refer to past examinations and their criteria. This will help students to gain a clear understanding of the expectations of the examination. This is particularly important for Section 2 of the examination.

Some students received outstanding results, showing maturity and sophistication in their written responses. However, even some of the best students missed out on marks because they did not know the text type features and the functions of the particle 'wa' well enough. Such weaknesses affected students' performances throughout the three sections.

SPECIFIC INFORMATION

Section 1 – Listening and responding

Question 1a.

最高級フレンチレストランで連日満員.

Many students did not mention 連日満員.

Question 1b.

一つのレストランで技術を習得したら、別のレストランに移ってさらに上の技術を学ぶ努力を重ねる。

Question 1c.

- 三年間、皿洗いと鍋洗いだけをさせられた。
- 自分の作ったソースを目の前で捨てられた。
- 皿洗いとして再スタートさせられた。
- フランスでの料理修行の苦労を表現していること。(例：味付けから調理法まですべてやり直させられたこと。フランス語がわからないで、うつ病の一步手前まで追い詰められたこと。など)

Question 1d.

- フランスで料理修行をするチャンスを与えてくれた。
- フランス料理の真髄を叩き込んでくれた。(習得させてくれた、教えてくれた)

Incorrect answer: パリの有名レストランを渡り歩く度胸をくれた。度胸と腕前が身についた。

Question 1e.

下記の五つのポイントを入れる。

- 若い人たちは苦労を避ける。
- 効率よく生きようとする
- 苦労や我慢を通して自分を鍛えることが大切。
- チャンスを100%掴み取れる自分を作る。
- 充実した人生を送ることができる。

回答例：若いシェフたちは、苦勞を避けて通り、効率よく生きることを考えすぎているように見える。しかし、人間は苦勞を通してこそ成長する。大事なのは、苦勞や我慢を通して自分を鍛えあげることだ。そうすることで、与えられたチャンスを100%掴み取れるようになり、結局はそうした生きかたが充実した人生を送ることに結びつく。(151字)

Many students wrote 口実よく・・・instead of 効率よく

Section 2 – Reading and responding

This section assesses students' ability to extract relevant and appropriate information from the given texts, understand what the texts imply in regard to the question, synthesise the information they have extracted and then complete their response, adding their own reflections and ideas.

Students needed to identify the following points before starting to write their response.

- clarify the audience, purpose and length required
- write an article for the local community newsletter in 900–1100 *ji*
- identify the text type specified for the response
- place the title in the first line and the name of the writer (use a fictitious name) in the second line
- establish who the writer is: a Japanese secondary school student studying overseas
- refer to the two texts given and present their thoughts about the importance of the language ability and how it could be improved
- extract the relevant information from both texts.

The main areas of information and ideas to be identified from the given texts were:

- the importance of the ability to speak the language well
- how this ability can be improved
- what the PISA tests showed
- what the main function of the language is, particularly of one's mother tongue.

Other matters to note included (this also applied to Section 3):

- correct use of *genkoo yooshi*, including position of punctuation in one square (句読点の一柁内の位置); 拗音・促音の書き入れ方; 段落のつけ方
- mixed use of *desu/masu* and *tada/da* styles (敬体と常体の混用)
- くだけた日常会話の言い方を文章内で使うこと: (例) 言っていないが一言っていないが、しといたほうが一しておいたほうが
- ら抜き言葉: (例) 出れるとしたら、させれない
- 同音異義語の漢字の混用と誤用: (例) 初め—始め、危剣性—危険性、未婚—未婚、決論—結論、専行—専攻等多数
- テキストタイプについての知識: (例) スピーチ原稿の始め方と終わり方; 日記は一行目に月日・曜日・天候を書き、常体(た・だの形)を使って書くこと; 記事はタイトル・著者名(本名を使わないこと)を書くこと; 公式の手紙と私用の手紙の形式・スタイルの違い等
- テキストから引用する場合には、ある文の一部、または、一つの文に限ること。長々とコピーしてはいけない。

Question 2

The following is a modified sample answer.

国語力・言語力の重要性について (fictitious name)

日本では、若い世代の国語力・言語力の低下が問題視されている。論文が書けない大学生が増えているとは90年代から言われてきたことだが、最近実施された、大学と短期大学の学生を対象とした日本語基礎力の調査では、国立大生の6%、私立大生の10%、短大生の35%の日本語力は、「中学生レベル」だということが明らかになった。

また、3年ごとに行われているPISA(国際学習到達度調査)によると、2000年から2006年までの間に、日本の高校一年生の文章表現や思考力を測る「読解力」は、8位から15位に落ちた。とくに明らかになったのは、日本の高校生は自由記述問題が不得意なことだった。



その原因としては、2002年から実施された「ゆとり教育」の影響が考えられた。その結果、2009年から、新しい学習指導要領が実施され、さらに、今年の9月からは、言語力検定が行われることになった。具体的には、「日本語教育」特区に認定された東京都世田谷区の例がある。ここでは、小学生から古典を学び、中学校では、考えることを学ぶ「哲学」と、自己表現を学ぶ「表現」を通して「母語」の向上を図っている。このカリキュラムの基本となっているのは、「知力や、ゆたかな人間性・社会性の基盤の一つは『ことば』である。」との考えである。

私は、現在オーストラリアの高校に留学しているが、日本の中学では「ゆとり教育」を受けた。オーストラリアの高校で学んで強く感じることは、「国語が思考そのものと深くかかわっている」という藤原正彦氏の言葉の真実性である。英語力が不十分なために、意思を伝達する上でどれだけ困ったか分からない。藤原氏は、「帰国子女は、数学の文章題でよくつまづく。」といわれるが、私は、英語の質問がよく理解できないために、日本では得意だった数学でさえもずいぶん苦勞している。

こちらの学校で英語の授業を受けて考えさせられたのは、日本の国語教育は「受身」だったことだ。キーワードを拾ったり、短い字数にまとめたりということが主で、文章・作品・言論などを吟味したり、批評したりする事はほとんどなかった。オーストラリアの学校のように、自分の意見を発表させられたり、討論しあったり、書かされたりすることが大事ではないかと思う。

ことばによる伝達力は、子供時代に交わした会話の量に関係するという。「このまま日本人の国語力の低下が続けば、日本人の知的活動力・論理的思考力・情緒・祖国愛が同時に低下して、確実に国を滅ぼす。」という藤原氏の警告が実現することのないように、私たちは母語である日本語の能力を伸ばしていかなければならない。(1087字)

Section 3 – Writing in Japanese

All students attempted this section. Most results were in the above- to below-average range. There were a few excellent works and few poor responses.

There was an even spread of topic choices. Topics requiring evaluative writing were generally popular. Of the two topics for imaginative writing, a spaceship experience to be written as a diary entry produced some excellent pieces.

Students' understanding of the text type requirements, correct usage of *genkoo yooshi* and their basic grammar skills (particularly of the function of particles) require further attention in order to improve the quality of the responses.